



山本一郎 院長

山本歯科医院矯正歯科クリニック  
〒662-0811 西宮市仁川町 2-3-8

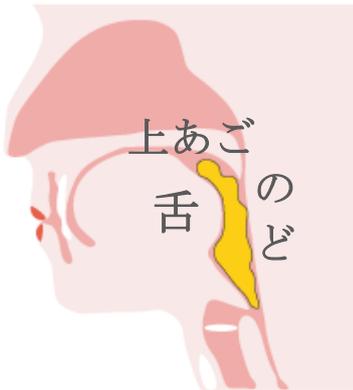
ホームページ：<https://yamamoto-d-clinic.com>



## 「食べる」「飲み込む」ことに困ってはいませんか？

山本歯科医院矯正歯科クリニックでは口の中の手術の後に「食べること」や「飲み込み」の機能が低下した人の治療やサポートを行なっています。

「飲み込み」は左図のように舌・上あご・のどが密閉し、食べ物を食道へ押しこみます。



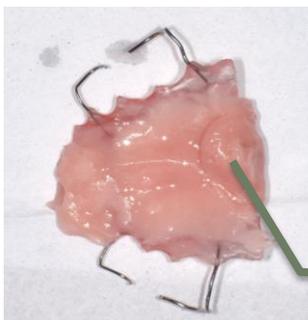
舌接触補助装置 (PAP) は、舌の上あごへの接触状態を変化させて「食べること」や「飲み込むこと (嚥下)」を改善させる治療方法の一つです。

腫瘍などの外科治療で口の中の組織に穴が開いてしまったり、動きが悪くなったりすると「食べる」「飲む」機能が低下します。当院で対応した症例を紹介します。

症例 1. 喉の手術の後で、飲みこみに時間がかかる。喋りにくくなった。

咽頭の手術後はのどと上あごに欠損ができることがあり、飲み込みの時に上あごと、のどの間にすき間が出来て、上手く飲み込めない、鼻から漏れるなどの障害が起こることがあります。

- 初診時：のどの奥をファイバースコープで見て動きを確認
- 2回目：口の中の型どりをして PAP(下図) を作製
- 3回目：PAP をセットしすき間を埋めるように調整
- 4回目：PAP の装着で「話しやすくなった」と。



歯がある人は歯にワイヤーでできたバネを引っ掛けて装着します。自分で取り外しが可能で、PAP の装着後もファイバースコープなどを用いて、言語聴覚士と嚥下評価を定期的に行い、装置を個々に合ったものに作りあげていきます。

真ん中は上あごと、のどのすき間を埋めるように盛り上げている

## 症例 2. 舌の手術の後で、食事と飲みこみがしにくい。

舌の術後では舌の運動障害と欠損が生じます。そのため、舌と上あごが接触せずに、食物を飲み込むときに奥に押し込む圧力が不足し嚥下障害が起こります。

入れ歯の後ろの方に豊隆を付与(右図)したタイプの PAP もあります。舌と口蓋との空隙を埋める目的で装着し、もちろん入れ歯としての機能を併せ持っています。

PAP の装着後もファイバースコープなどを用いて、言語聴覚士と嚥下評価を定期的に行い、装置を調整して作りあげていきます。



舌が動きにくい分、上あごが下がっている

**初診時**：大学病院から紹介されて受診。義歯作製。

**一ヶ月後**：義歯完成。義歯の後方に材料を付与し PAP に。

**その後**：咬む、しゃべる、飲み込む機能を確認しながら調整。「**スベアの義歯も作製し、話すとき用と食事用と使い分けています**」と。

## 症例 3. 上あごの手術後で、上あごに穴が空いて食べられない。



上あごの手術後は口と鼻もしくは口と上顎洞が交通していることもあり、上あごが一部空いている事で飲み込みにくくなっています。

**初診時**：医療センターから紹介受診、義歯作成依頼。開口障害あり。

**一か月後**：顎の欠損部に適合するような義歯(左図)を装着。開口訓練。

**数か月後**：「おしゃべりもしやすく、飲み込みもできるようになった」と。引き続き定期的な調整を行っている。

当院 HP です。スマホカメラで写してみてください



山本歯科医院矯正歯科クリニック  
西宮市仁川町 2-3-8

<https://yamamoto-d-clinic.com>

阪急今津線「仁川駅」より徒歩 2 分 P 8 台あり

